

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業名	つばさ学園児童デイサービス事業			会計	款	項目	大	小
政策	01	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	児童発達支援センター				
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり	主管課長	長谷川 聖二				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	概ね2歳から就学前の児童で、成長・発達の心配のある児童と保護者	意図	成長・発達に心配がある幼児・児童及びその保護者に対しての支援をとおして、幼児・児童の運動、ことば、社会性・対人性など、全体発達を促すと共に保護者の不安を和らげる。
事業内容	発達に遅れや心配ある幼児・児童に対して、日常生活における基本的動作の習得及び集団生活に適應できるように、児童の身体並び生活環境に応じた通園日数の中で、効果的な支援・訓練を行う。			
事業開始から現在までの状況変化	平成23年10月1日に開所。平成24年4月からは、3歳未満児の利用児は1年間保護者と一緒に通園し療育を受ける。利用園児数が増加傾向にある中、日数支援のため並行通園児（幼稚園・保育所）の数が増えている。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	延べ利用人数	2,417	2,561	2,756	人	↑↑↑
②							
③							
④							
⑤							
⑥							

指標で表すことができない定性的な成果

目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）
 流山市の人口増加に伴い、児童デイ利用延べ人数も増加傾向にあるが日数支援の関係から1日の利用を考えるともう少し支援できる状況である。幼稚園や保育所との並行通園児童の数が多く、保護者、幼稚園、保育所との情報の共有が重要になってきている。

事務事業のコスト	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事務事業の総コスト(a=b+c)	31,174,375	37,918,099	45,253,337
事業費(b)(円)	12,308,375	11,964,099	14,355,337
うち一般財源			
職員給与と費(c)(円)	18,866,000	25,954,000	30,898,000
人役・職員(人)	2.00	3.00	4.00
人役・再任用(人)			
人役・臨職(人)	3.00	2.00	2.00
人役・嘱託(人)			
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）			
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）			

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
				コストの削減	A 削減の余地はない	
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H28)の改善計画	日数支援・利用形態に合わせた支援内容や行事のあり方について検討する。職員体制の充実を図る。	③取組の課題	並行通園をしている児童が多く、幼稚園や保育園、保護者と連携し、理解が得られるような支援内容等継続して検討する
②今年度(H28)に実施した取組	行事内容を精査し、親子遊びを大きな行事とし年3回として保護者の参加を促し、療育支援につなげた。職員体制を6名とした。	④今後の改善計画	利用者の利用人数の増加傾向への対応が必要になる。